

**CASBEE京都-新築(2011年版)**  
**(仮称)JR桂川駅前プロジェクト(A敷地)駐車場棟**

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.30</b>			<b>4.0</b>
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル						1.0		
2 設備騒音対策								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能						1.0		
2 界壁遮音性能						1.0		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					1.0	1.0		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					1.0	1.0		
1.3 吸音						1.0		
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
1 室温						1.0		
2 負荷変動・追従制御性								
3 外皮性能						1.0		
4 ゾーン別制御性								
5 温度・湿度制御								
6 個別制御								
7 時間外空調に対する配慮								
8 監視システム								
2.2 湿度制御						1.0		
2.3 空調方式						1.0		
<b>3 光・視環境</b>					<b>4.0</b>	1.00		<b>4.0</b>
3.1 昼光利用					<b>4.0</b>	1.00		
1 昼光率	●自然	A(全国版準用)				1.0		
2 方位別開口						1.0		
3 昼光利用設備	●自然	B(推奨内容)	移動式粉末消化設備表示灯にソーラー電池を採	4.0	1.00	3.0		
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア								
2 昼光制御	●自然	B(推奨内容)				1.0		
3 映り込み対策								
3.3 照度						1.0		
3.4 照明制御						1.0		
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質						3.0		
2 アスベスト対策								
3 ダニ・カビ等								
4 レジオネラ対策								
4.2 換気								
1 換気量						3.0		
2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)				1.0		
3 取り入れ外気への配慮						1.0		
4 給気計画								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>						<b>0.30</b>		<b>2.1</b>
<b>1 機能性</b>					<b>1.2</b>	0.40		<b>1.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ					<b>3.0</b>	0.40		
1 広さ・収納性							3.0	
2 高度情報通信設備対応							3.0	
3 バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)						
1.2 心理性・快適性					<b>1.0</b>	0.30		
1 広さ感・景観	●とも	C(独自加点)					3.0	
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画	●とも	D(独自基準)			1.0	1.00		
1.3 維持管理					<b>3.0</b>	0.30		
1 維持管理に配慮した設計			配管・配線は露出配管としメンテナンスが容易	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>					<b>2.7</b>	0.31		<b>2.7</b>
2.1 耐震・免震					<b>3.0</b>	0.48		
1 耐震性					3.0	0.80		
2 免震・制振性能					3.0	0.20		
2.2 部品・部材の耐用年数					<b>2.5</b>	0.33		
1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)			3.0	0.42		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					2.0	0.42		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.17		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								

2.4 信頼性					2.2	0.19	-	-	
1	空調・換気設備				1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					2.8	0.29	-	-	2.8
3.1 空間のゆとり					2.6	0.31	-	-	
1	階高のゆとり				1.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	耐震壁を持たない構造	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31	-	-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		-	-	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		-	-	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.25	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.25	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
6	バックアップスペース				-	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.40	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	4.1
1 建物の熱負荷抑制					-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用					4.0	0.29	-	-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)	外壁を開放し自然換気・排煙を利用	4.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光発電設備を住棟の屋上に設置している。	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化					5.0	0.43	-	-	5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=90.5%	5.0	-	-	-	
集合住宅の評価					4.0	-	-	-	
4 効率的運用					3.0	0.29	-	-	3.0
4.1	モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護					3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水					-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	1.00	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.63	-	-	2.9
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		1.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	部材の分別が容易な構造・仕上げ	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					5.0	0.22	-	-	5.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用			対象物質を含有しない建材種が15項目	5.0	1.00	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					-	-	-	-	
1	消火剤				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				-	-	-	-	
3	冷媒				-	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮					4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮					2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.33	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				-	-	-	-	
3	交通負荷抑制			評価できる取組みが4ポイント以上	5.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮					2.8	0.33	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	1.00	-	-	
2	振動				-	-	-	-	
3	悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				-	-	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制				3.0	1.00	-	-	
3.3 光害の抑制					2.3	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				2.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる